１３年４月本文他

本文

2013年４月１日

**櫻のイメージは卒業式？**

　明けて３月。「待ってました」とばかりに関東でも春一番。

先月は「春の嵐」の下でのスタートでしたが、２日には秋田新幹線が雪害により脱線。凍える心地したと思いきや、急転して８日には４月下旬の陽気となり、果てまた、３月10日には明治9年の統計とり出して以来の最も早い夏日とかで、何と、東京では25.3℃にもなりました。

そのせいでしょうか？16日には、靖国神社の、東京の開花宣言をする基準木が咲き出したりして、今年は、強風の中でのお花見となった諸兄姉もおいでになった事でしょう。

所で、桜と言うと、何をイメージするのでしょうか？

桜前線は西から北上して行きますから、桜満開での入学式が全国津々浦々一斉に行われることはありっこないのですが、やはり桜と言えば入学式。入学式と言えば、桜花、正門の前での記念撮影と「祝・入学式」の立て看板。

東京では多くの公立の小学校や中学校では25日に卒業式が行われたようですが、満開の桜と共に校長先生の祝辞を聞いたのではないでしょうか。東京近郊では、昔から４月７～８日位に開花した桜のもとで入学式が行われてきているようですから、早まった分、“地球温暖化”が進んでいる。なんて言ったら、風情も何もあったものではないとお叱りを受けてしまいますね。

変な提案ですが、桜花を「卒業式」の心象風景に切り替える必要がありそうです。

このように３月の天候は目まぐるしく、千変万化極まりない気象でしたが、花粉濃度は例年のそれを上回り、西方からは黄砂、それに、ｐｍ2.5とかいう厄介者まで飛来して、散々な「弥生三月」ではございました。

櫻の話のついでに、拙宅の桜木について述べさせていただきたいと思います。

昭和40年頃の話。猫の額ほどの庭のド真ん中に山桜がでんと構え、先端は二階にまで届く構えで、葉芽と花が同時に開くのでしょうか？“都会的と言うよりは山里風”の風情。控え目で、清楚な感じが好きでした。

二十年以上前に家を建て替えることになり、どうしてもその桜が邪魔になる。

仕方なく伐採して同じ場所に跡取りの桜の苗木を植えたのですが、新入りはソメイヨシノで、まあ伸びるや太るやらで先輩の図体を凌駕してしまった。

一昨年、植木屋さんから「もう限界、伐採しないと建物に影響するし隣近所に迷惑」。と言われて一旦は思い立ったのですが、何としても不憫で、幹はともかく枝葉を思いっきりそぎ落とされた滲めな姿。咲く気力すら失ったかと思ったのですが、昨春はともかく今年は満開で、やっぱり残してよかったと相成った次第です。

現役の頃は花鳥風月、その類はすべからく、見る目、鑑賞眼すらなかったのですが、この年にして花咲いた“いたわる”一輪です。

趣味の写真の方も、やれ花だの、風景だの、鳥だの・・・。面白半分、撮りまくって悦に入る時期は過ぎたようで、自らの“下手さ”加減を自ら評価できるようになりまして、空恐ろしい上に何を写しても不出来極まりなく、幻滅の悲哀をいやと言うほど味わっております。

掲載させていただく写真は、桜三昧と言ったところですが、まあ、“スランプ”状態にあるとでも思召してご笑覧ください。

私のHPの主題は「メタボ解消」であり、今回は蛇足になってしまいましたが、徒労に終わるとは重々承知の上、低山とは言え、“歩き・登って”おります。

３月14日には定期検診の帰途、国領駅で下りが先に来たら高尾山、上りだったら出社と賭けたら普通電車の高尾山行。もちろんケーブル拒否、冷雨の中、背広姿で傘さしさし歩いたの何のって。勢い余って、JR高尾駅まで歩き、さらにはバスを横目に三鷹駅から拙宅までビッコひきひき。27,000歩でした。

加えて、仲間とは埼玉県小川町近傍の官ノ倉山から石尊山のコース。たかだか344ｍなんて前日の深酒に加えて寝不足。天罰覿面でこむら返り一歩手前でした。何事も「過ぎたるは及ばざるが如し」。歩いても登ってもメタボ解消には程遠い現実です。

では、この辺で。

表題部の写真　107-4421　自宅の桜

1. 107-4326　下落合氷川神社の早咲き桜

３月10日から一泊二日で、練馬在住のOB達と熱海の梅園見学に行ってきたのですが、好天気に背中を押されて時間にゆとりをもって出たのですが、西武線車窓から新目白通りを介して目に留まった下落合氷川神社の、早咲き桜のピンクを写したい衝動に駆られ、途中下車までして撮った一枚です。

宮司さんによれば、35年前に河津市から貰い受けたとのことで、２月下旬に咲く筈だったとのこと。

３月に入ってからは一転して一気に春の気配。今年の桜前線は早足との印象が強いのですが、早咲きの河津櫻にしてみれば、２月の冷気は身に堪えたのでしょうか？

氷川神社は入口こそ街道沿いで騒音に晒されるものの、通り抜けるとそこはひっそりとした住宅街。思わず曲がりくねった小路を歩いて山手線のガードをくぐり、植栽の手入れされた歩道を登って、トサミズキを撮ったり、切手の博物館が目白駅の近くにあるのも知ったのもこの時です。

今回は無理でしたが、ゆっくり鑑賞したいものです。

1. 107-4475　拙宅の桜

本文で説明させていただいた拙宅のソメイヨシノです。

３月23日、日の出直後の陽を受けて、腕を伸ばせば手にすることのできる桜花が橙色に輝いているのを、二階のベランダから写しました。

今になって気付いたのですが、我が後半の人生を、手を携えて歩んできた、掛け替えのない、ぎっしり思い出の濃縮した桜です。

伐採するなんて、考えることは金輪際ないでしょう。

多分幹の太さは私の腹囲と同じくらいかな？なんて思って、たった今計ったところ1.2ｍ。はるかに兄貴分でした。

1. 107-4470,4277　出勤途上

今年１月に、「早起きは三文の徳」と題して、健康増進とメタボリック症候群脱皮の為に地下鉄を前の駅で降り、1.6㎞を、20分、2,300歩で徒歩出勤している話を載せさせていただきました。

日常の生活時間帯を早戻しして、早朝出勤を心掛ける。ラッシュを避けてゆっくり座って出勤、新聞のひと読みも可能になったと良いことづくめでしたが、やはりこの歳、本音は電車に座りたい一心なのだ。

地下鉄有楽町線「辰巳駅」から、東雲鉄鋼団地に至る三っのコースとは

1. りんかい鉄道と首都高速道路、国道357線に沿って、辰巳森林緑道経由で落ち葉踏み踏み歩くコース。
2. 湾岸の都道に沿って、東京ゲートブリッジを海越しに眺めながら歩く海辺コース。

そして、一番北側は、③　超高層マンション群に通じる、それは立派な歩行者専用の辰巳新橋経由の、ちょっと遠回りする内側のコースです。

二番目のコースは真冬の日の出時間に合わせてゲートブリッジが輝くのを撮影したのですが、この時節は海風がひどく、特に雨降りには閉口するので帰路のコースと定め、三番目を避けるのは、ちょっと距離があるからかなあ？

専ら出勤時に歩むのは①のコースです。この道は東京を周回する21コースで構成される「武蔵野の道」の「夢の島・お台場コース」の一部に当たり、落ち葉敷き詰める小路を歩むもので、高速道路が開通する前に掛かっていた、今では車の走らない旧橋を経由するものです。

上は桜花を介して超高層マンション群を撮ったもの。

下の一枚は、辰巳新橋と、東京湾の水門、そして東京スカイツリーを写したのものです。

1. 107-DSCN2651

真壁のひな祭り

町おこしの一環として10年前から「真壁のひな祭り」と称して、蔵からお雛様を出して競い合って並べ、今や、その時節になるとTV放送でも二つや三つ取り上げる人気のスポットとなりました。

実は、茨城県桜川市真壁は、私が疎開でお世話になった土地で、工場が桜川市にあるものですから時々お邪魔してはいるものの、過疎化が激しく、“あくびする猫”さえ見かけることのない閑散とした街並みです。

戦時中のこととて、私の思い出は陰惨極まりないものばかりでしたが、蔵の片隅に絢爛豪華なお雛様がじっと耐えていたのだなあと思うにつけ、一目見るなり、高貴な存在として光り輝き、釘づけになってしまいます。

ちなみに、お世話になったのは伯母の嫁した商家で、明治期には皇族の宿泊所にあてられ、99年に茨城の登録有形文化財に指定された建物だったのですが、戦時中のことゆえ、“猫に小判”的存在、雨風を凌ぐ以上の何物でもありませんでした。